

令和7年度調査研究事業

8020の実態把握に関する パイロット調査実施報告書（第2報） ～幸手市（埼玉県）での横断調査～

2026年3月20日

公益財団法人8020推進財団

調査研究実施者

研究責任者

小林 慶太 (公財) 8020 推進財団副理事長

研究者

山本 秀樹 (公財) 8020 推進財団専務理事

上條 英之 (公財) 8020 推進財団嘱託(東京歯科大学歯科社会保障学客員教授)

高柳 篤史 (公財) 8020 推進財団理事(東京歯科大学衛生学講座客員教授)

鈴木誠太郎 東京歯科大学衛生学講座客員講師

倫理申請

本研究は日本歯科医学会研究倫理審査委員会承認申請し、2025 年 4 月 7 日付けで承認をされた。

目次

1. 本調査の目的…………… P2
2. 調査の方法…………… P2
3. 結果の概要…………… P3
4. 考察…………… P6
5. 参考文献…………… P7
6. 調査結果表…………… P8

資料 1 調査に使用した入力フォーム

資料 2 調査協力申込書

資料 3 申し込みはがきの返信状況

資料 4 検査センター会場（ウェルス幸手）での日程と出勤数

1. 本調査の目的

本調査の目的は、80歳における歯・口腔内の状態を明らかにするため、全国での調査を検討するにあたって、2024年に実施した柏市（千葉県）で実施した調査¹⁾に続いて、幸手市（埼玉県）の協力を得て、80歳の者に対するパイロット調査を実施するものである。

8020運動は1989年に厚生省（当時）と日本歯科医師会が提唱して開始され、既に30年以上が経過した。令和6年歯科疾患実態調査²⁾の結果によると、8020達成者は61.5%と推計されている。

しかしながら歯科疾患実態調査の対象者は2020年国勢調査の一般調査区から抽出した、475地区の満1歳以上の世帯員で口腔内診査を受診した者であり、比較的自立をしている高齢者が多く含まれていると推察される。人口に占める高齢者の割合が増えてきていることから、要介護の高齢者が増える傾向にあり、現在の歯科疾患実態調査の実施方法からみて、要介護の高齢者等は、歯科疾患実態調査に参加していない可能性が非常に高いと推察される。そこで、2024年に柏市（千葉県）にて80歳のパイロット調査として横断調査を実施した。柏市は、人口436,219人（2024/10時点）で、65歳以上である老年人口割合は26.0%であり、全国平均の29.3%（2024/9/15時点）に比べて3%以上低い地域であった。そして本調査では、柏市とは人口構造の異なる幸手市で実施した。幸手市の人口48,530人（2025/8時点）で、65歳以上である老年人口割合は36.0%であり柏市に比べて10%高く、高齢化が進んでいる地域である。

本調査は柏市での調査と併せて、我が国の80歳での歯・口の詳細な状況を多角的に把握のための参考資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の方法

対象は幸手市在住で1945年1月1日から12月31日までに生まれた者（満80歳）の583人を対象とした。

幸手市の協力を得て、2025年7月30日現在の住民基本台帳から選定された対象者に対し、幸手市から委託を受けた業者が調査の案内を郵送することで調査への参加協力を依頼した。調査の周知には、幸手市医師会や幸手市薬剤師会等にも調査の周知に協力を求めた。その後返信はがき、または電話による申し込みを実施し、診査会場にて同意を取得した。口腔内診査および質問紙調査を実施する会場へ自力で移動できない対象者については、参加協力の同意が得られる場合に限り下記の対応を行った。

- ・自力で口腔内診査会場へ移動できる場合：

幸手市の協力歯科医院もしくは研究者が設置する口腔内診査会場（検査センター）で歯科医師による調査を実施した。

- ・自力で口腔内診査会場へ移動できない場合：

対象者へ介護サービスを実施している介護事業所等に協力を仰ぎ、口腔内診査を実施する幸手市歯科医師会の歯科医師が対象者の自宅または施設へ訪問して調査を実施した。

口腔内診査による調査項目は、性別、歯の状態、動揺度、口腔清掃状況、根面う蝕の有無（未処置根面う蝕）、歯肉出血、口腔乾燥とした。問診による調査項目は自己申告の歯の本数、義歯使用の有無、口腔機能（咀嚼、むせ、口渇、滑舌）、ADL、生活背景（居住形態、要介護度）とした。対象者の認知機能に低下を認める場合は、介助者等から回答を得た。

また、調査実施前に必携を作成した上で協力歯科医師等に対して説明会を実施し、診査基準の統一を図った。

調査の実施にあたっては PC、スマートフォン、タブレットによる Web 入力記録を原則とし、通信環境が整わない状況においては記録用紙にて内容を記録し、後日 Web 入力を行った。

実施時期は 2025 年 9 月から 2026 年 1 月とした。

3. 結果の概要

1) 受診状況について

受診者数は 154 名（男性 76 名、女性 78 名）、受診率は 26.4%であった。検査会場別の割合は、検査センター 52 名（34%）、個人診療所 95 名（62%）、施設 2 名（1%）、自宅 5 名（3%）であった（表 1）。

介護の状況の男女別では、男性で自立している者は 68 名（89.5%）、要支援（1～2）は 5 名（6.6%）、要介護（1～5）は 3 名（3.9%）であった。女性で自立している者は 70 名（89.7%）、要支援（1～2）は 5 名（6.4%）、要介護（1～5）は 3 名（3.8%）であった（表 2）。

介護の状況の検査会場別では、検査センターで自立している者は 47 名（90.4%）、個人診療所 90 名（94.7%）、施設 1 名（50.0%）、自宅 0 名（0.0%）であった（表 3）。

2) 8020達成率について

今回の調査における 8020達成率は、65.6%（101/154 名）であった。性別による達成率は、男性 56%（43/76 名）、女性 74%（58/78 名）であった（表 4）。

検査会場所別の達成率では、検査センター 69.2%（36/52 名）、個人診療所 65.3%（62/95 名）、施設 50.0%（1/2 名）、自宅 40.0%（2/5 名）となった（表 5）。

3) 検査項目別の口腔内状況

【現在歯数】

①現在歯数について

現在歯数（平均±標準偏差）は 19.5±9.6 本であった。（表 6）。

介護状況別では、自立している者は 19.8±8.7 本、要支援（1～2）は 22.6±5.9 本、要介護（1～5）は 14.3±0.8 本であった（表 7）。

検査会場別では、検査センターで 19.6±9.1 本、個人診療所で 19.7±8.7 本、施設で 21.0±9.9 本、自宅で 15.8±9.9 本であった（表 8）。

②現在歯数が 20 歯以上の割合について

残存歯数が 20 歯以上の者は 101 名（65.6%）であり、男性では 43 名（57%）、女性では 58 名（74%）であった（表 10）。

介護状況別では、20 歯以上の者は自立している者では 93 名（67.40%）、要支援（1～2）では 4 名（66.7%）、要介護（1～5）では 4 名（40.0%）であった（表 9）。

【歯の状態】

平均健全歯数は 8.7±6.8 本、未処置歯数は 0.8±2.0 本、処置歯数は 10.0 本±6.5 本、根

面う蝕数は 0.4 ± 1.2 本であった。男女別では、男性で健全歯数は 9.1 ± 7.4 本、未処置歯数は 0.7 ± 1.6 本、処置歯数が 8.2 ± 6.2 本、根面う蝕数が 0.3 ± 0.9 本であった一方、女性で健全歯数は 8.4 ± 6.2 本、未処置歯数は 0.9 ± 2.3 本、処置歯数は 11.7 ± 6.2 本、根面う蝕数は 0.4 ± 1.4 本であった(表 10)。

介護状況別では、自立している者で健全歯は 8.9 ± 6.8 本、未処置歯は 0.6 ± 1.9 本、処置歯は 10.2 ± 6.4 本、根面う蝕は 0.3 ± 1.1 本、要支援(1~2)で健全歯は 10.0 ± 6.4 本、未処置歯は 0.8 ± 1.2 本、処置歯は 11.3 ± 6.2 本、根面う蝕は 0.7 ± 1.2 本、要介護(1~5)で健全歯は 4.9 ± 6.2 本、未処置歯は 3.1 ± 2.7 本、処置歯は 6.3 ± 7.0 本、根面う蝕は 0.9 ± 1.4 本であった(表 11)。

検査会場別では、検査センターで健全歯は 9.6 ± 6.8 本、未処置歯は 0.7 ± 1.6 本、処置歯は 9.3 ± 6.6 本、根面う蝕は 0.3 ± 0.8 本、個人診療所で健全歯は 8.2 ± 6.7 本、未処置歯は 0.7 ± 2.1 本、処置歯は 10.7 ± 6.4 本、根面う蝕は 0.4 ± 1.3 本、施設で健全歯は 11.5 ± 10.6 本、未処置歯は 3.0 ± 4.2 本、処置歯は 6.5 ± 3.5 本、根面う蝕は 0.0 ± 0.0 本、自宅で健全歯は 7.6 ± 8.0 本、未処置歯は 2.2 ± 2.2 本、処置歯は 6.0 ± 6.1 本、根面う蝕は 1.2 ± 1.8 本であった(表 12)。

根面う蝕の罹患状況と口腔清掃状態の関係については、口腔清掃状態が良好な者で 0.11 ± 0.43 本、普通な者で 0.30 ± 0.85 本、不良な者で 1.25 ± 2.35 本であった(表 13)。

男女別では、男性において口腔清掃状態が良好な者で 0.04 ± 0.20 本、普通な者で 0.41 ± 1.10 本、不良な者で 0.58 ± 1.07 本であった一方、女性では口腔清掃状態が良好な者で 0.15 ± 0.53 本、普通な者で 0.19 ± 0.47 本、不良な者で 3.80 ± 4.03 本であった(表 14)。

根面う蝕と口腔乾燥の関係については、口腔乾燥が軽度な者で 0.82 ± 1.85 本、なしの者で 0.26 ± 0.93 本であった(表 15)。

男女別では、男性において口腔乾燥が軽度な者で 0.85 ± 1.52 本、なしの者で 0.22 ± 0.71 本であった一方、女性では口腔乾燥が軽度な者で 0.80 ± 2.15 本、なしの者で 0.30 ± 1.12 本であった(表 16)。

【咬合の状態】

アイヒナー分類は、動揺度 2 以上の歯も咬合支持に含めた形態上の分類と、動揺度 2 以上の歯を咬合支持から除外した機能上の分類に分けて解析した。形態では、A1~3 が 39%、B1~4 が 44%、C1~3 が 17%であり、機能では、A1~3 が 39%、B1~4 が 45%、C1~3 が 16%であった。臼歯部に咬合接触のない者(B4, C1~3)の割合は形態で 26%、機能で 25%であった(表 17、18)。

咬合三角における咬合支持状況の分析では第 1 エリアの者が 55%、第 2 エリアの者が 19%、第 3 エリアの者が 10%、第 4 エリアの者が 16%であった(表 19)。

【口腔清掃状態】

口腔内清掃状態は、良好が 66 名(42.9%)、普通が 64 名(41.6%)、不良が 24 名(15.6%)であった。男女別では、男性で良好が 25 名(32.9%)、普通が 32 名(42.1%)、不良が 19 名(25.0%)、女性で良好が 41 名(52.6%)、普通が 32 名(41.0%)、不良が 5 名(6.4%)であった(表 20)。

介護状況別では、自立している者で良好が61名(44.2%)、普通が59名(42.8%)、不良が18名(13.0%)、要支援(1~2)の者で良好が3名(50.0%)、普通で2名(33.3%)、不良で1名(16.7%)、要介護(1~5)の者で良好が2名(20.0%)、普通が3名(30.0%)、不良が5名(50.0%)であった(表21)。

検査会場別では、検査センターで良好が27名(51.9%)、普通が17名(32.7%)、不良が8名(15.4%)、個人診療所で良好が38名(40.0%)、普通が44名(46.3%)、不良が13名(13.7%)、施設で良好が0名(0.0%)、普通が1名(50.0%)、不良が1名(50.0%)、自宅で良好が1名(20.0%)、普通が2名(40.0%)、不良が2名(40.0%)であった(表22)。

【歯肉出血】

歯肉出血は、ありの者が35名(22.7%)であった。男女別では、男性でありの者が22名(28.9%)、女性で13名(16.7%)であった(表23)。

介護状況別では、自立している者でありの者が32名(23.2%)、要支援(1~2)の者が0名(0.0%)、要介護(1~5)の者が3名(30.0%)であった(表24)。

検査会場別では、検査センターでありの者が9名(17.3%)、個人診療所で24名(25.3%)、施設で0名(0.0%)、自宅で2名(40.0%)であった(表25)。

【口腔乾燥】

口腔乾燥は、軽度の者が28名(18.2%)であった。男女別では、男性で軽度の者が13名(17.1%)、女性で15名(19.2%)であった(表26)。

介護状況別では、自立している者で軽度の者が25名(18.1%)、要支援(1~2)の者が3名(50.%)、要介護(1~5)の者が0名(0.0%)であった(表27)。

検査会場別では、検査センターで軽度の者が10名(19.2%)、個人診療所で17名(17.9%)、施設で0名(0.0%)、自宅で1名(20.0%)であった(表28)。

4) 問診による調査項目

【義歯の使用状況】

義歯の使用状況は、義歯を使用している者は73名(47.4%)、義歯を作成していない者が68名(44.2%)、義歯を作成したが使用していない者が13名(8.4%)であった。男女別では、男性で義歯を使用している者は40名(52.6%)、女性で33名(42.3%)であった(表29)。

8番を除外した上で、解析対象者を欠損歯のある者139名に限定した結果、義歯を使用している者は73名(52.5%)、義歯を作製していない者が53名(38.1%)、義歯を作製したが使用していない者が13名(9.4%)であった。男女別では、男性で義歯を使用している者は40名(58.0%)、女性で33名(47.1%)、義歯を作製したが使用していない者は男性で7名(10.1%)、女性で6名(8.6%)、義歯を作製していない者は男性で22名(31.9%)、女性で31名(44.3%)であった(表30)。

【咀嚼の状況】

咀嚼の状況は、半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えた者は26名(16.9%)であった。男女別では、男性で14名(18.4%)、女性で12名(15.4%)であった(表31)。

【むせの状況】

むせの状況は、お茶や汁物等でむせることがあると答えた者は 19 名 (12.3%) であった。男女別では、男性で 10 名 (13.2%)、女性で 9 名 (11.5%) であった (表 32)。

【口渇の状況】

口渇の状況は、口の渇きが気になると答えた者は 32 名 (20.80%) であった。男女別では、男性で 13 名 (17.1%)、女性で 19 名 (24.4%) であった (表 33)。

【滑舌の状況】

滑舌の状況は、普段の会話で、言葉をはっきりと発言できないことがあると答えた者は 31 名 (20.1%) であった。男女別では、男性で 18 名 (23.7%)、女性で 13 名 (16.7%) であった (表 34)。

【外出の状況】

外出の状況は、一人で外出することができるかと答えた者は 144 名 (93.5%) であった。男女別では、男性で 73 名 (96.1%)、女性で 71 名 (91.0%) であった (表 35)。

【寝たきりの状況】

寝たきりの状況は、日中のほとんどをベッドの上で過ごしていると答えた者は 6 名 (3.9%) であった。男女別では、男性で 3 名 (3.9%)、女性で 3 名 (3.8%) であった (表 36)。

【居住形態】

居住形態は、夫婦二人が 67 名 (43.5%)、1 人暮らしが 25 名 (16.2%)、介護施設が 3 名 (1.9%)、子供と同居が 54 名 (35.1%)、その他が 5 名 (3.2%) であった。男女別では、男性で夫婦二人が 41 名 (53.9%)、1 人暮らしが 7 名 (9.2%)、介護施設が 1 名 (1.3%)、子供と同居が 24 名 (31.6%)、その他が 3 名 (3.9%)、女性で夫婦二人が 26 名 (33.3%)、1 人暮らしが 18 名 (23.1%)、介護施設が 2 名 (2.6%)、子供と同居が 30 名 (38.5%)、その他が 2 名 (2.6%) であった (表 37)。

4. 考察

本調査の受診率は 26.4% であった。2024 年に実施した令和 6 年歯科疾患実態調査の 15.9% と比べて約 10% 高かった。本調査において郵送による調査協力の依頼に対して返信があったのは 15.8% であったが、その後、幸手市医師会や幸手市薬剤師会の協力を得て、調査実施の周知を行った結果、最終的には受診率は 26.4% になった。2024 年に実施した柏市の調査の受診率の 9.3% に比べて約 17% 増加した。受診率が柏市での調査と比べて高くなった要因としては、今回の調査では調査の周知に医師会や薬剤師会の協力が得られたことと、幸手市は柏市に比べて、人口規模が小さく、周知がしやすかったためであったと考えられた。しかしながら、受診率は全体の 4 分の 1 程度に留まり、今回の調査において、柏市での調査と同様に自宅等への訪問による調査も行ったが、訪問を希望した者は、全体の受診者の 5% 程度で、柏市での調査での 4% とほぼ同じ割合であり、自力で検査会場に来場できない被検者に対し

て訪問による受診を可能にただけでは、受診率を大幅に向上させることはできなかった。実際に調査が実施されることを知っても、「自分の口の中を見られたくない」などといったことが理由で受診しなかった住民が多く認められた。また、認知機能の低下が認められる対象者においても、調査の同意を取得することが困難であった。これらのことから、80歳の高齢者の実態把握のための調査方法のうち、自宅や介護施設等へのアウトリーチの健診については、根本的な検討が必要であると考えられた。

本調査での8020達成者は65.6%であり、令和6年歯科疾患実態調査の結果である61.5%と近似していた。柏市での8020達成者の81.6%と比べて約15%低かった。この要因としては、地域差や受診率の違いによるものと考えられた。地域差においては、人口規模が小さい自治体の方が現在歯数が少ない傾向があることが報告³⁾されており、柏市に比べて幸手市の人口規模が小さいことが要因となっている可能性がある。」

今回の調査を男女別で見ると、男性56%、女性74%で、女性の方が達成率が高かった。柏市の調査（男性79%、女性85%）においても女性の方が高かったが、本調査の方が男女差が大きかった。特に一人暮らしの受診者における8020達成者の割合は男性43%（3/7名）女性89%（16/18名）と2倍以上の差があり、男女の生活環境と8020達成の関連性を詳しく調べる必要があると考えられた。

また、8020の達成者を介護の状況を見ると自立している者67%（93/138）、要支援（1～2）の者は67%（4/6名）、要介護（1～5）の者は40%（4/10名）で要介護者が低かった。ただし、要介護者は今回の調査の6.5%のみであり、要介護者の口腔実態を把握するための方法の検討が必要であると考えられた。

謝辞

8020推進財団として、初めて80歳における歯科横断調査を実施したことは大変意義があり、幸手市でのパイロット調査実施に際しご理解ご協力いただいた関係各位に対し深甚なる謝意を表します。

特に、幸手市健康福祉部健康増進課 加藤奈美課長、関森由美子主幹ならびに関係職員、幸手市歯科医師会・幸手市医師会・幸手市薬剤師会の会員の皆様に心から感謝申し上げます。

5. 参考文献

1. 公益財団法人8020推進財団、8020の実態把握に関するパイロット調査実施報告書 2025年3月
2. 厚生労働省、令和6年歯科疾患実態調査の概要
https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/62-17b_r06.pdf
3. 国民健康・栄養調査結果からみた成人・高齢期における現在歯数の地域間格差，福田英輝、田野ルミ、大島克郎、三浦宏子，厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」最終評価と次期計画策定に資する全国データの収集と歯科口腔保健データの動向分析令和4年度 分担研究報告書

6. 調査結果各データ表

表 1 受診者の概要 (単位：名)

	男性	女性	総計
検査センター	31	21	52
個人診療所	41	54	95
施設	1	1	2
自宅	3	2	5
総計	76	78	154

表 2 男女別の介護状況

	介護を受けて いない(自立)	要支援 (1~2)	要介護 (1~5)	総計
男	68名	5名	3名	76名
	89.5%	6.6%	3.9%	100%
女	70名	5名	3名	78名
	89.7%	6.4%	3.8%	100%
総計	138名	10名	6名	154名
	89.6%	6.5%	3.9%	100.0%

表 3 検査会場別の介護状況

	介護を受けて いない(自立)	要支援 (1~2)	要介護 (1~5)	総計
検査センター	47名	2名	3名	52名
	90.4%	3.8%	5.8%	100.0%
個人診療所	90名	4名	1名	95名
	94.7%	4.2%	1.1%	100.0%
施設	1名	1名	0名	2名
	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
自宅	0名	3名	2名	5名
	0.0%	60.0%	40.0%	100.0%
総計	138名	10名	6名	154名
	89.6%	6.5%	3.9%	100.0%

表 4 男女別の 20 本以上の現在歯数を持つ者

	20 歯未満	20 歯以上	総計
男	33 名	43 名	76 名
	43.4%	56.6%	100.0%
女	20 名	58 名	78 名
	25.6%	74.4%	100.0%
総計	53 名	101 名	154 名
	34.4%	65.6%	100.0%

表 5 検査会場別の 20 本以上の現在歯数を持つ者

	20 歯未満	20 歯以上	総計
検査センター	16 名	36 名	52 名
	30.8%	69.2%	100.0%
個人診療所	33 名	62 名	95 名
	34.7%	65.3%	100.0%
施設	1 名	1 名	2 名
	50.0%	50.0%	100.0%
自宅	3 名	2 名	5 名
	60.0%	40.0%	100.0%
総計	53 名	101 名	154 名
	34.4%	65.6%	100.0%

表 6 男女別の平均残存歯数（単位：本）

	平均値	標準偏差
男	18.0	9.6
女	21.0	7.9
総計	19.5	8.9

表 7 介護状況別の平均残存歯数 (単位：本)

	平均値	標準偏差
介護を受けていない（自立）	19.8	8.7
要支援（1～2）	22.6	5.9
要介護（1～5）	14.3	10.8
合計	19.5	8.9

表 8 検査会場別の平均残存歯数 (単位：本)

	平均値	標準偏差
検査センター	19.6	9.1
個人診療所	19.7	8.7
施設	21.0	9.9
自宅	15.8	9.9
総計	19.5	8.9

表 9 介護状況別の 20 歯以上の残存歯数を持つ者

	20 歯未満	20 歯以上	総計
介護を受けていない（自立）	45 名	93 名	138 名
	32.6%	67.4%	100.0%
要支援（1～2）	2 名	4 名	6 名
	33.3%	66.7%	100.0%
要介護（1～5）	6 名	4 名	10 名
	60.0%	40.0%	100.0%
総計	53 名	101 名	154 名
	34.4%	65.6%	100.0%

表 10 男女別の歯の状態

(単位：本)

		健全歯	未処置歯	処置歯	根面う蝕
男	平均値	9.1	0.7	8.2	0.3
	標準偏差	7.4	1.6	6.2	0.9
女	平均値	8.4	0.9	11.8	0.4
	標準偏差	6.2	2.3	6.2	1.4
総計	平均値	8.7	0.8	10.0	0.4
	標準偏差	6.8	2.0	6.5	1.2

表 11 介護状況別の歯の状態

(単位：本)

		健全歯	未処置歯	処置歯	根面う蝕
介護を受けていない (自立)	平均値	8.9	0.6	10.2	0.3
	標準偏差	6.8	1.9	6.4	1.1
要支援(1~2)	平均値	10.0	0.8	11.3	0.7
	標準偏差	6.4	1.2	6.2	1.2
要介護(1~5)	平均値	4.9	3.1	6.3	0.9
	標準偏差	6.2	2.7	7.0	1.4

表 12 検査会場別の歯の状態

		健全歯	未処置歯	処置歯	根面う蝕
検査センター	平均値	9.6	0.7	9.3	0.3
	標準偏差	6.8	1.6	6.6	0.8
個人診療所	平均値	8.2	0.7	10.7	0.4
	標準偏差	6.7	2.1	6.4	1.3
施設	平均値	11.5	3.0	6.5	0.0
	標準偏差	10.6	4.2	3.5	0.0
自宅	平均値	7.6	2.2	6.0	1.2
	標準偏差	8.0	2.2	6.1	1.8
合計	平均値	8.7	0.8	10.0	0.4
	標準偏差	6.8	2.0	6.5	1.2

表 13 口腔清掃状態による根面う蝕の状況

	人数	平均値	標準偏差
良好	66名	0.11本	0.43本
普通	64名	0.30本	0.85本
不良	24名	1.25本	2.35本
総計	154名	0.36本	1.17本

表 14 男女別の口腔清掃状態による根面う蝕の状況

	男性			女性		
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差
良好	25名	0.04本	0.20本	41名	0.15本	0.53本
普通	32名	0.41本	1.10本	32名	0.19本	0.47本
不良	19名	0.58本	1.07本	5名	3.80本	4.03本
総計	76名	0.33本	0.92本	78名	0.40本	1.37本

表 15 口腔乾燥別の根面う蝕の状況

	人数	平均値	標準偏差
軽度	28名	0.82本	1.85本
なし	126名	0.26本	0.93本
総計	154名	0.36本	1.17本

表 16 男女別の口腔乾燥による根面う蝕の状況

	男性			女性		
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差
軽度	13名	0.85本	1.52本	15名	0.8本	2.15本
なし	63名	0.22本	0.71本	63名	0.3本	1.12本
総計	76名	0.33本	0.92本	78名	0.4本	1.37本

表 17 アイヒナー分類の比率（形態）

	人数	割合
A1	11名	7%
A2	28名	18%
A3	21名	14%
B1	30名	19%
B2	16名	10%
B3	10名	6%
B4	13名	9%
C1	3名	2%
C2	9名	6%
C3	13名	9%

※動揺度 2 以上の歯も咬合支持に含む

表 18 アイヒナー分類の比率（機能）

	人数	割合
A1	10名	6%
A2	27名	18%
A3	23名	15%
B1	29名	19%
B2	17名	11%
B3	9名	6%
B4	14名	9%
C1	3名	2%
C2	9名	6%
C3	13名	8%

※動揺度 2 以上の歯を咬合支持から除外

表 19 咬合三角の分布

	人数	割合	男性	女性
第 1 エリア	85名	55%	34名	51名
第 2 エリア	29名	19%	17名	12名
第 3 エリア	15名	10%	8名	7名
第 4 エリア	25名	16%	17名	8名

表 20 男女別の口腔清掃状態

	良好	普通	不良	総計
男	25 名	32 名	19 名	76 名
	32.9%	42.1%	25.0%	100.0%
女	41 名	32 名	5 名	78 名
	52.6%	41.0%	6.4%	100.0%
総計	66 名	64 名	24 名	154 名
	42.9%	41.6%	15.6%	100.0%

表 21 介護状況別の口腔清掃状態

	良好	普通	不良	総計
介護を受けていない（自立）	61 名	59 名	18 名	138 名
	44.2%	42.8%	13.0%	100.0%
要介護（1～5）	3 名	2 名	1 名	6 名
	50.0%	33.3%	16.7%	100.0%
要支援（1～2）	2 名	3 名	5 名	10 名
	20.0%	30.0%	50.0%	100.0%

表 22 検査会場別の口腔清掃状態

	良好	普通	不良	総計
検査センター	27 名	17 名	8 名	52 名
	51.9%	32.7%	15.4%	100.0%
個人診療所	38 名	44 名	13 名	95 名
	40.0%	46.3%	13.7%	100.0%
施設	0 名	1 名	1 名	2 名
	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%
自宅	1 名	2 名	2 名	5 名
	20.0%	40.0%	40.0%	100.0%

表 23 男女別の歯肉出血の状態

	歯肉出血あり	歯肉出血なし	総計
男	22 名	54 名	76 名
	28.9%	71.1%	100.0%
女	13 名	65 名	78 名
	16.7%	83.3%	100.0%
総計	35 名	119 名	154 名
	22.7%	77.3%	100.0%

表 24 介護状況別の歯肉出血の状態

	歯肉出血あり	歯肉出血なし	総計
介護を受けていない（自立）	32 名	106 名	138 名
	23.2%	76.8%	100.0%
要支援（1～2）	0 名	6 名	6 名
	0.0%	100.0%	100.0%
要介護（1～5）	3 名	7 名	10 名
	30.0%	70.0%	100.0%

表 25 検査会場別の歯肉出血の状態

	歯肉出血あり	歯肉出血なし	総計
検査センター	9 名	43 名	52 名
	17.3%	82.7%	100.0%
個人診療所	24 名	71 名	95 名
	25.3%	74.7%	100.0%
施設	0 名	2 名	2 名
	0.0%	100.0%	100.0%
自宅	2 名	3 名	5 名
	40.0%	60.0%	100.0%

表 26 男女別の口腔乾燥の状態

	軽度	なし	総計
男	13 名	63 名	76 名
	17.1%	82.9%	100.0%
女	15 名	63 名	78 名
	19.2%	80.8%	100.0%
総計	28 名	126 名	154 名
	18.2%	81.8%	100.0%

表 27 介護状況別の口腔乾燥の状態

	軽度	なし	総計
介護を受けていない（自立）	25 名	113 名	138 名
	18.1%	81.9%	100.0%
要支援（1～2）	3 名	3 名	6 名
	50.0%	50.0%	100.0%
要介護（1～5）	0 名	10 名	10 名
	0.0%	100.0%	100.0%

表 28 検査会場別の口腔乾燥の状態

	軽度	なし	総計
検査センター	10 名	42 名	52 名
	19.2%	80.8%	100.0%
個人診療所	17 名	78 名	95 名
	17.9%	82.1%	100.0%
施設	0 名	2 名	2 名
	0.0%	100.0%	100.0%
自宅	1 名	4 名	5 名
	20.0%	80.0%	100.0%

表 29 男女別の義歯の使用状況

	使用している	義歯を作製していない	義歯を作製したが、使用していない	総計
男	40名	29名	7名	76名
	52.6%	38.2%	9.2%	100.0%
女	33名	39名	6名	78名
	42.3%	50.0%	7.7%	100.0%
総計	73名	68名	13名	154名
	47.4%	44.2%	8.4%	100.0%

表 30 欠損歯を有する者の男女別の義歯の使用状況

	使用している	義歯を作製していない	義歯を作製したが、使用していない	総計
男	40名	22名	7名	69名
	58.0%	31.9%	10.1%	100.0%
女	33名	31名	6名	70名
	47.1%	44.3%	8.6%	100.0%
総計	73名	53名	13名	139名
	52.5%	38.1%	9.4%	100.0%

表 31 男女別の咀嚼状況（半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか）

	はい	いいえ	総計
男	14名	62名	76名
	18.4%	81.6%	100.0%
女	12名	66名	78名
	15.4%	84.6%	100.0%
総計	26名	128名	154名
	16.9%	83.1%	100.0%

表 32 男女別のむせの状況（お茶や汁物等でむせることがありますか）

	はい	いいえ	総計
男	10名	66名	76名
	13.2%	86.8%	100.0%
女	9名	69名	78名
	11.50%	88.5%	100.0%
総計	19名	135名	154名
	12.3%	87.7%	100.0%

表 33 男女別の口渇の状況（口の渇きが気になりますか）

	はい	いいえ	総計
男	13名	63名	76名
	17.1%	82.9%	100.0%
女	19名	59名	78名
	24.4%	75.6%	100.0%
総計	32名	122名	154名
	20.8%	79.2%	100.0%

表 34 男女別の滑舌の状況

（普段の会話で、言葉をはっきりと発言できないことがありますか）

	はい	いいえ	総計
男	18名	58名	76名
	23.7%	76.3%	100.0%
女	13名	65名	78名
	16.7%	83.3%	100.0%
総計	31名	123名	154名
	20.1%	79.9%	100.0%

表 35 男女別の外出の状況（一人で外出することができますか）

	はい	いいえ	総計
男	73名	3名	76名
	96.1%	3.9%	100.0%
女	71名	7名	78名
	91.0%	9.0%	100.0%
総計	144名	10名	154名
	93.5%	6.5%	100.0%

表 36 男女別の寝たきりの状況（日中のほとんどをベッドの上で過ごしていますか）

	はい	いいえ	総計
男	3名	73名	76名
	3.9%	96.1%	100.0%
女	3名	75名	78名
	3.8%	96.2%	100.0%
総計	6名	148名	154名
	3.9%	96.1%	100.0%

表 37 男女別の居住形態

	夫婦二人	一人暮らし	介護施設	子供と同居	その他	総計
男	41名	7名	1名	24名	3名	76名
	53.9%	9.2%	1.3%	31.6%	3.9%	100.0%
女	26名	18名	2名	30名	2名	78名
	33.3%	23.1%	2.6%	38.5%	2.6%	100.0%
総計	67名	25名	3名	54名	5名	154名
	43.5%	16.2%	1.9%	35.1%	3.2%	100.0%

資料1 調査に使用した入力フォーム

歯科健診入力フォーム 2023/11/30 10:15

●患者ID番号 (はがきに記載の番号)

●検査会場 検査センター 個人診療所 病院 施設 自宅 その他

●検査実施者名

●年齢 才 (0才~120才)

●性別 男 女 無回答

●地域 (47都道府県)

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

●歯の状態

●動揺度

咬合支時に機能していない。歯の状態を選択し、続けて動揺度を左から選択すると、次の歯へ移動します。「欠損」を選択の場合は、動揺度の入力は無く次の歯へ移動します。
 動揺はあるが機能している。
 動揺なし

●根面う蝕の数 (0本~32本)

●口腔清掃状態 不良 普通 良好

●歯肉出血 あり なし

●口腔乾燥 重度 軽度 なし

●同診

歯は何本ありますか? (0本~32本)

義歯は使用していますか? 使用している
 義歯を作製したが、使用していない
 義歯を作製していない

口腔機能

半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか はい いいえ

お茶や汁物等でむせることがありますか はい いいえ

口の渇きが気になりますか はい いいえ

普段の会話で、言葉をはっきりと発音できないことがありますか はい いいえ

ADL

一人で外出することができますか はい いいえ

日中のほとんどをベッドの上で過ごしていますか はい いいえ

生活背景

居住形態 介護施設 一人暮らし 夫婦二人 子供と同居 その他

要介護度 介護を受けていない(自立) 要支援(1~2) 要介護(1~5)

資料3 申し込みはがきの返信状況

(単位：名)

	実際の受診者数	はがき申し込み数
検査センター	52	49
個人診療所	95	43
施設	2	2
自宅	5	6
合計	154	100

資料4 検査センター会場（ウェルス幸手）での日程と出動数

日程	10/2	10/16	10/19	10/23
時間	9時～12時	9時～12時	9時～12時	9時～12時
申込数（案内送付）	80名	80名	45名	70名
申込数（はがき）	18名	17名	7名	7名
動員歯科医師数	6名	6名	4名	3名